

地域別集計報告 2023-11月

11月評価における経産牛の遺伝的能力評価値について、地域別の集計結果を掲載しています。

<比較対象>

改良の進み具合が分かるよう、現在と3年前の能力を比較したグラフを表示しています。

現在の値には2020年生まれの個体、3年前は2017年生まれの個体を対象に、SBV(標準化育種価)の平均を計算し、SBVの平均値と、()内には3年間の増加量を表示しています。

<地域区分>

個体数ができるだけ均等に確保できるよう、北海道、東北地方、関東地方、北陸・中部地方、近畿・中国・四国地方、九州・沖縄地方の6つの地域に分けて集計しています。

<対象形質>

泌乳形質や体型形質などから、総合指数にも関係する、乳量、乳蛋白質量、肢蹄、乳器、体細胞スコア、泌乳持続性、在群能力の7形質の評価値を対象としています。

体細胞スコアは値が低くなるほど好ましい形質であるため、正負の符号を逆にした値を掲載しています。

地域の特徴

—北海道—

- ・乳量、乳蛋白質量の評価値は地域の中で一番高く、在群能力の評価値も高い。
- ・乳器は増加量が一番大きい。

北海道	
-----	--

—東北—

- ・体細胞スコア、在群能力の評価値は地域の中で一番高く、乳器の評価値も高い。
- ・在群能力は評価値の増加量が、一番大きい。

青森	岩手
秋田	宮城
山形	福島
群馬	栃木
埼玉	茨城
東京	千葉
神奈川	

—北陸・中部—

- ・乳量、乳蛋白質量、泌乳持続性、肢蹄の評価値が高い。
- ・肢蹄の増加量が一番大きい。

・乳量、乳蛋白質量、泌乳持続性、肢蹄の評価値が高い。
 ・肢蹄の増加量が一番大きい。

										青森	岩手
										秋田	宮城
										山形	福島
										石川	新潟
										京都	
										福井	富山
										岐阜	長野
										群馬	栃木
										埼玉	茨城
										東京	千葉
										神奈川	

—九州・沖縄—

- ・肢蹄、乳器の評価値が地域の中で一番高い。
- ・乳器、在群能力の増加量が比較的良い。

佐賀	福岡
長崎	大分
熊本	宮崎
鹿児島	
沖縄	

—近畿・中国・四国—

- ・泌乳持続性の評価値は地域の中で一番高く、乳量、乳蛋白質量の評価値も高い。
- ・乳量、乳蛋白質量、泌乳持続性の増加量が、地域の中で一番大きい。

—関東—

- ・泌乳持続性、肢蹄の増加量が比較的良い。

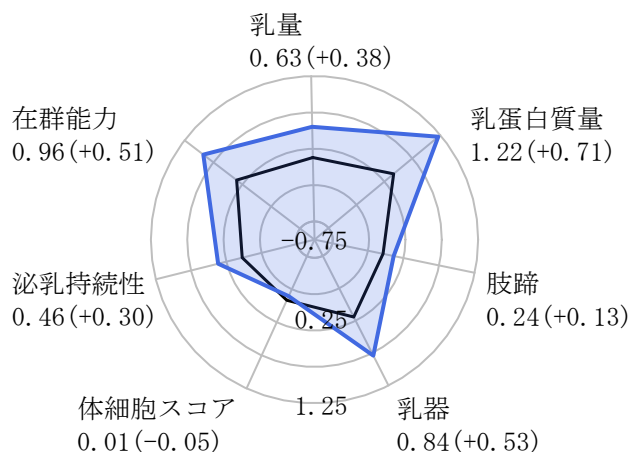
注) 増加量：各形質の「評価値」の増加量

— : 2020年 — : 3年前(2017年)

n = 乳量・乳蛋白質量/肢蹄・乳器/体細胞スコア/泌乳持続性/在群能力について、2020年の平均値を計算した個体数

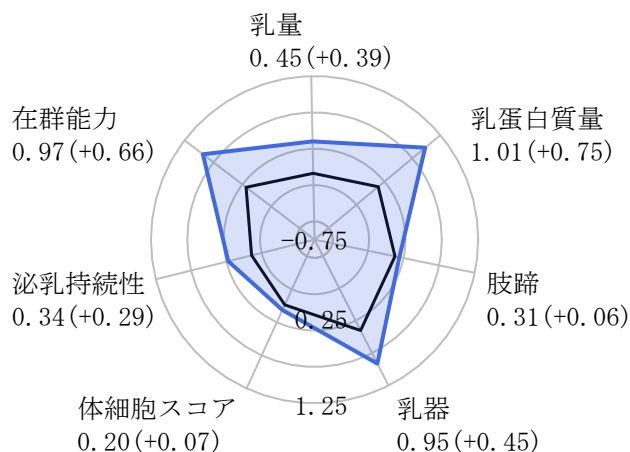
北海道

n = 102,218/ 21,675/ 96,066/ 102,218/ 11,197



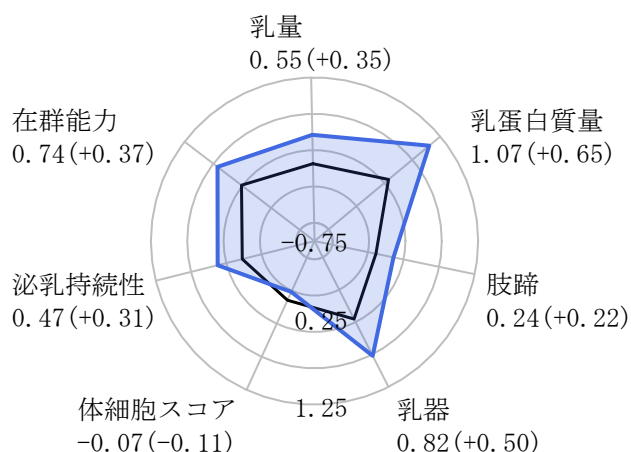
東北

n = 5,507/ 2,265/ 5,209/ 5,507/ 917



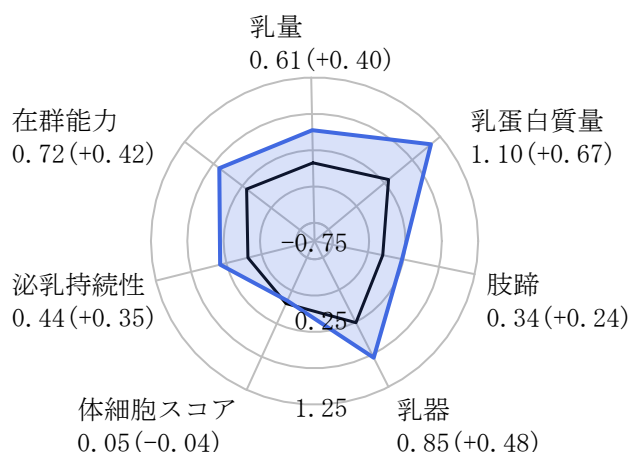
関東

n = 8,095/ 2,835/ 7,601/ 8,095/ 950



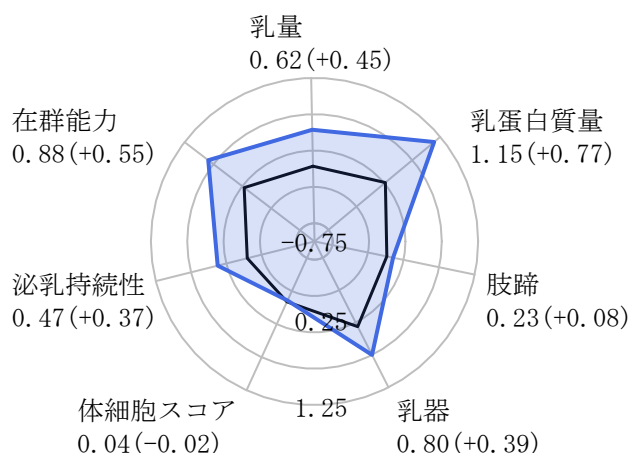
北陸・中部

n = 3,120/ 1,226/ 2,836/ 3,120/ 232



近畿・中国・四国

n = 5,363/ 1,502/ 5,082/ 5,363/ 491



九州・沖縄

n = 9,335/ 2,598/ 8,797/ 9,335/ 1,497

